

# 医療法人社団 松弘会 トワーム小江戸病院

(埼玉県川越市)

## 開放感あふれた優美な空間づくりと 最新画像診断装置を導入した “治す”治療が患者の信頼につながる

患者の高齢化と地域のニーズに応える形で2008年に認知症専門病院としてオープンした、トワーム小江戸病院。専門的な医療を提供する病院としての機能を備えつつ、重厚なつくりと明るく開放的な空間をつくることで、従来の精神科病院のイメージと一線を画することに成功している。

天井からシャフテリアが下げられた、吹き抜けのある格調高いエントランス

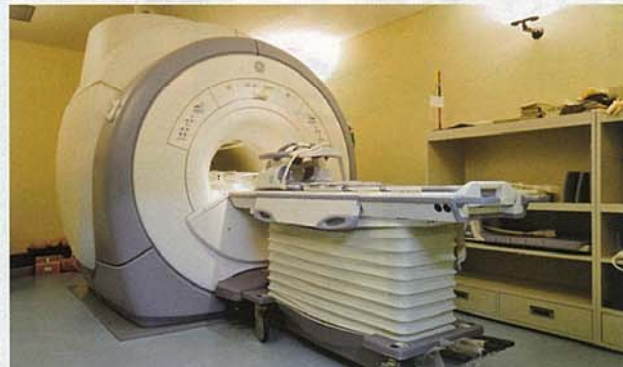
撮影＝関口宏紀



グランドピアノが置かれ、入院患者の憩いの場となっている食堂・ダイナー



↑リハビリやレクリエーションの一貫としてドッグセラピーを導入している



←同院に導入された、米国GE社製の最新型3.0テスラMRI

「治せる病気を発見するための最新医療機器を備えています」と語る済陽輝久理事長



←病院のカラーであるピンクを基調とした外来待合



↑術後、早期に社会復帰できるようにリハビリにも力を入れている



↑エレガントな家具で統一された個室

**病院**  
医療法人社団 松弘会  
トワーム小江戸病院  
住所：埼玉県川越市下老袋490-9  
電話：049-222-8111  
http://www.towarm.com/coedo/  
病床数：200床



←一流ブランドの制服に身をつむスタッフが出迎える



↑病院の前には、芝生が張られた広大な庭と季節折々で楽しめるリハビリ農園を有する

シャンデリアがあるエントランス  
ドッグセラピーなど従来の概念を変える

病院の前には手入れが行き届いた芝生が一面に広がり、患者が散歩をしながら季節の花々を楽しむ様子が見られる。そして病院に一步入ると、シャンデリアが輝く、開放感あふれるエントランス。まるでホテルのような空間で、ここが認知症治療の専門病院、精神科病院であることを忘れてしまいたいようになる。

「憩いの場など遊びの部分をつくり、閉鎖的で近寄りづらいという一般的な精神科病院のイメージから脱却するコンセプトとデザインを追求しました。自分が患者さんの立場になったときの快適さを大事にしています」と話すのは、済陽輝久理事長だ。法人では24年前、さいたま市内に急性期の三愛病院を開院し、患者のニーズに合わせて在宅部門などを独立させてきたが、高齢化とともに認知症の症状が出る患者が増えたため、専門の治療を行う医療機関の必要性を感じ、開院に踏み切った。

パールホワイト、ラプリーピンクなどのコンセプトカラーが随所に使われた院内にはイタリヤ製の高級家具が置かれ、快適に過ごせる空間を創出。認知症患者の性質を踏まえたうえで、少人数のユニット型病棟とし、患者の状態に合わせた治療を実施。また、ドッグセラピストが常勤し、リハビリやレクリエーションの場でセラピー犬と触れ合うことでADLの回復やQOLの向上、精神面のサポートを行うなど、ユニークな取り組みを行っている。

他院で受け入れを断られていた  
合併症患者を積極的に治療し、QOL向上

同院の特徴の一つに、認知症患者に対して、治すための最新の治療を行う、高齢者医療の拠点であることが挙げられる。「従来の精神科病院では受け入れを断られていた、合併症をもつ患者さんを診ているうちに、合併症のみならず認知症の症状も改善できるようになりました」と済陽理事長は語る。

それには、マルチスライスCT、小腸用カプセル内視鏡、胃カメラ、3Dエコーなど、一般病院並みの画像診断装置が活躍する。特に、アルツハイマー型や脳血管性などの認知症の早期発見・治療につながる、最新型の3.0テスラの超高磁場MRIを昨年導入している。「主流の1.5テスラのものより2倍の磁場強度があるため、0.5mm程度の細い血管や微小出血などを映し出せます。早期発見により、t-PAの投与や外科的治療が可能です」。さらに高齢者に多い大腿骨頭部骨折についても、人工骨頭を使うことで当日から歩行が可能な「人工骨頭置換術」を行う。「この手術により患者のQOL向上だけでなく、医療費の節減と感染症が激減しました。高齢者がかかりやすい疾患はすぐに治療を施す、そのためにはやはりきちんと画像診断をしていく必要があります。病院の外観に加え、質の高い医療に提供が患者さんの信頼につながっていくます」と済陽理事長は力を込める。